

大規模災害医療救護計画とは

飯田下伊那の市町村と三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）が平成15年11月1日付けで締結した協定に基づき策定（平成17年初版、平成26年に1次改定）
大規模地震等の災害発生時に、増大する医療需要に適切に対応するための計画

見直しの方針（抜粋）

- 1 最近の地震の事例を踏まえて傷病者数を設定し、（救護所でのトリアージは現実的に間に合わないため）傷病者を各医療機関へ分散して診療する計画とする
- 2 飯伊地区包括医療協議会の対策本部は、災害直後に圏域内の医療機関等の情報収集と関係機関との情報共有を最優先事項として行う
- 3 発災72時間後は保健所長をリーダーとする「保健医療福祉調整会議」が中心となって避難所等への支援隊の手配等の調整を行う（包括の本部も移行・合流する）

被害想定

東海地震・南海トラフ地震発生時の被害想定（40年以内の長期確率90％）

予想震度(最大)	死者	トリアージ赤 (重症)	トリアージ黄 (中等症)	トリアージ緑 (軽症)
6 強	7人	30人	60人	120人
被害想定		停電：1 カ月（3日後から時間停電）／断水：3 日／ 通信網：電話は1～3日間不通、データ通信は可能		

傷病者を
分散して診療

トリアージ緑(軽症)対応診療所

対応いただける診療所

トリアージ黄(中～軽症)対応病院

飯田病院、健和会病院、輝山会記念病院、県立阿南病院
下伊那厚生病院、下伊那赤十字病院、瀬口脳神経外科病院（頭部外傷）

トリアージ赤(重症)対応病院

飯田市立病院（災害拠点病院）

病院前救護所（震度 6 弱以上で病院が開設）

飯田市立病院、飯田病院、健和会病院、輝山会記念病院では、病院前救護所を設置して、近隣の診療所からの医師の応援を受けてトリアージと軽症者(緑)への応急処置を行い帰ってもらう（無料診療）

応援にいく診療所：安達整形外科医院、飯田中央眼科、飯田山本クリニック、いちほし内科医院、浦野耳鼻咽喉科医院、木下クリニック、クリニックやながわ、クローバークリニック、源田内科医院(本部)、ごうど眼科、さの小児科医院、すきがら医院(本部)、すずおか内科クリニック、須田内科醫院、曽我医院、中塚内科循環器科医院、波多野医院、羽生循環器科内科、久田医院、古島内科胃腸科医院、フルタ眼科医院、松尾医院、宮沢医院、矢澤内科・循環器科医院、矢野こどもクリニック(本部)、山崎医院、南信州ハートクリニック

大地震が発生したら

災害発生

- ・ある程度の期間、停電と断水になる可能性があります。
- ・負傷者を運ぶ先は、負傷の程度に応じて医療機関を選択してください。

負傷者

避難所

避難所で軽症者への応急処置をする市町村もあります。



トリアージ緑(軽症)対応診療所

骨折(小)、打撲、外傷(小)、切創、捻挫、脱臼、擦過傷

菅沼病院(鼎)、飯田市立上村診療所・千代診療所、回生堂皮膚科クリニック(上郷)、かみさと耳鼻咽喉科医院(上郷)、くまがいクリニック(北方)、慶友整形外科(上郷)、後藤医院(高森町)、後藤医院(伝馬町)、佐藤医院(根羽村)、下條診療所、下久堅診療所、宝クリニック(鼎)、天龍村診療所、富草へき地診療所、新野へき地診療所、橋上医院(阿智村)、三浦医院(喬木村)、泰阜村診療所

トリアージ黄(中～軽症)対応病院

骨折(中～小)、外傷(中～小)、中度熱傷、頭部外傷

飯田病院、健和会病院、輝山会記念病院、県立阿南病院
下伊那厚生病院、下伊那赤十字病院、瀬口脳神経外科病院(頭部外傷)
※トリアージ黄と緑に対応する

トリアージ赤(重症)対応病院

多発外傷・挫滅症候群、広範囲熱傷、骨折(大)、大量出血、呼吸困難

飯田市立病院(災害拠点病院)
県立阿南病院(他病院へ搬送するまでの間)

多くの負傷者が発生した場合は、飯田市立病院が重症者の対応に集中出来るようご協力ください。

震度6以上の場合、診療所の医師が応援に行き、病院前に救護所を設けてトリアージと応急処置を行う病院があります。

停電等の被害や時間帯によって、診療ができない場合や応急処置となる場合があります。

-----大規模地震発生の可能性-----

南海トラフ地震は、概ね100～150年間隔で繰り返し発生していますが、特に東海地震は1854年の安政東海地震から170年以上大規模地震が発生しておらず、いつ発生してもおかしくない状況です。30年以内に87%の発生確率(H19試算)